

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

国の「こども大綱」が目指している「こどもまんなか社会」は、こども・若者が自分らしく自らの希望に応じてその意欲と能力を活かせるようになることや、こどもを産み育てたいと考える個人の希望が叶うことによって、こども・若者と子育て当事者の幸福を追求することを重要視しています。そして、その結果として少子化・人口減少の流れを転換し、未来を担う人材を社会全体で育み、社会経済の持続可能性を高めることにより、こども・若者と子育て当事者をはじめとするすべての人にとって社会的価値が創造され、その幸福が高まることを最終的な目標としています。

この目標を達成するために、こども・若者の権利を保障し、誰一人取り残さず、その健やかな成長を地域全体で後押しすることが、今後のこども・子育て施策において求められています。

「第2期牧之原市子ども・子育て支援事業計画」では、「のびのびとこどもが育ち 今と未来と子育てを 地域で支え合う まきのほら」を基本理念に掲げ、こども・子育て施策の推進を図ってきました。この基本理念に込められたメッセージは、「こどもまんなか社会」が目指す目標を実現するうえで求められている「こども・若者の健やかな成長を地域全体で後押しする」ことを体現したものであるといえます。

よって、本計画においても、この基本理念を引き継ぎ、こどもを産み育てやすいまちづくりを推進していくものとします。

基本理念

のびのびとこどもが育ち 今と未来と子育てを
地域で支え合う まきのほら

2 基本目標

国や県の動向、本市の課題および方向性、アンケート調査結果、こども・子育てを取り巻く課題等を踏まえて、本計画においては5つの基本目標を設定し、多様なこども・子育て施策を展開していきます。

基本目標1 こどもの心身の健やかな成長を愛情をもって支える地域づくり

本市で生まれたこどもが安心して日々を過ごし、その健やかな成長を実現させるため、教育・保育事業および地域子ども・子育て支援事業の提供体制の充実に努め、こどもの養育環境の向上と子育て中の保護者の負担軽減を図ります。また、本市の教育・保育環境について、心身の豊かさを持ったこどもを育てるものとなるよう、ハード面とソフト面の双方における充実に図ります。

基本目標2 子育て世帯をあたたく見守り、安心して子どもを産み育てられる環境づくり

本市で子育てに励む保護者が、子育てに喜びを感じることでできるよう、妊娠・出産・子育てへと続く切れ目ない支援を提供し、誰もが安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進します。

また、保護者が抱える子育てに関する悩みや不安を取り除くとともに、子育て世帯の孤立を防ぐため、地域における相談支援・情報提供体制の充実と地域全体で子育て世帯を支える取り組みの推進を図ります。

基本目標3 次代を切り拓く力を育む教育を展開する体制づくり

「牧之原市教育大綱」が基本理念に掲げる「こころざしを持ち、夢あるひとづくり」を目指し、学校では、「次代を切り拓く力」を育成する教育内容の充実を図ります。また、コミュニティ・スクールを活用し学校と地域が協同して、子どもが地域のひと・もの・ことから学ぶことのできる機会を創造します。また、個に応じた指導・支援を充実させるなど、子ども一人ひとりを大切にした教育を充実させていきます。

基本目標4 すべての子どもを大切に、安全・安心な生活を保障する環境づくり

障がいのある子どもや発達に課題のある子どもなどに対し、状況に応じた支援を提供していきます。また、児童虐待の防止・早期対応や近年の社会課題であるヤングケアラー支援等による子どもの権利擁護を図ります。

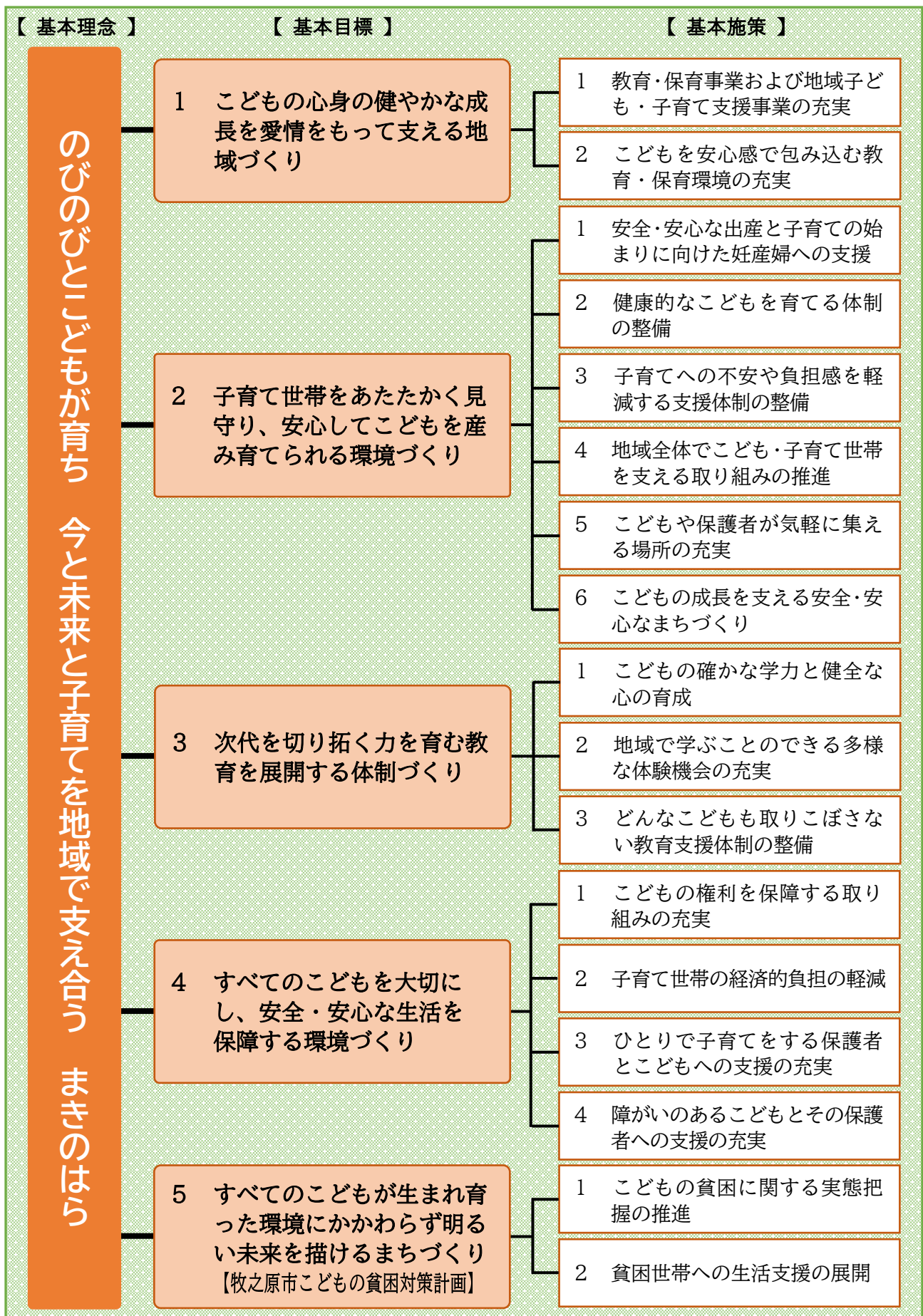
加えて、ひとり親家庭およびその子どもに対し、自立につながる経済的支援・就労支援等を提供します。

基本目標5 すべての子どもが生まれ育った環境にかかわらず明るい未来を描けるまちづくり【牧之原市子どもの貧困対策計画】

すべての子どもが、生まれた家庭の経済状況にかかわらず未来に希望を持って日々を送ることができるよう、「子どもの貧困対策」に向けて、配慮が必要な子どもや保護者に対し、関係機関が相互に連携を図りながら、相談対応の充実や各種負担の軽減等、それぞれの家庭が求める支援につなげる体制づくりを図っていきます。

また、基本目標5による施策を「子どもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」に基づく「牧之原市子どもの貧困対策計画」として位置付けます。

3 施策の体系



4 数値目標

本市のこども・子育て施策の成果を測る指標として、「第3次牧之原市総合計画」における方向性等を踏まえ、以下の数値目標を設定します。

【区分の欄について】

区分「アンケート調査」は、本計画策定にあたり実施したアンケート（第2章）を指標としています。

区分欄に記載の①から⑥の表示は、次のアンケート調査結果に対応しています。

区分欄の表示	対象のアンケート	アンケート回答者
①	生活実態に関するアンケート調査	小学5年生
②	生活実態に関するアンケート調査	中学2年生
③	生活実態に関するアンケート調査	小学5年生保護者
④	生活実態に関するアンケート調査	中学2年生保護者
⑤	子ども・子育て支援に関するアンケート	就学前児童保護者
⑥	子ども・子育て支援に関するアンケート	小学1～3年生保護者

現状値欄に記載の数値は、すべての回答を合算して算出したものです。

目標値欄の値は、次のとおり設定しました。

現状値	目標値
80%未満	現状値+10.0%
80%以上 90%未満	現状値+5.0%
90%以上	現状値+3.0%

目標	区分	指標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
基本理念	アンケート調査 ①②	毎日の生活が楽しいと感じるこどもの割合	86.9%	91.9%以上 (+5.0%)
	アンケート調査 ③④⑤⑥	幸せだと感じる保護者の割合	82.6%	87.6%以上 (+5.0%)
1	取り組み	通常保育事業（保育・教育）	待機児童ゼロ	待機児童ゼロ
	アンケート調査 ⑤⑥	地域における子育ての環境や支援への保護者満足度 (10点満点評価の平均点)	4.96点	5.96点以上 (+1.00点)
2	アンケート調査 ③④⑤⑥	子育てについて不安や負担を感じる保護者の割合	52.5%	42.5%以下 (-10.0%)
	アンケート調査 ③④⑤⑥	地域ではこどもの安全が守られていると感じる保護者の割合	54.3%	64.3%以上 (+10.0%)
3	アンケート調査 ①②	将来の夢があるこどもの割合	53.8%	63.8%以上 (+10.0%)
	アンケート調査 ①②	努力すれば、できるようになると感じるこどもの割合	87.4%	92.4%以上 (+5.0%)
	アンケート調査 ①②	自分は誰かの役に立つことができると感じるこどもの割合	70.0%	80.0%以上 (+10.0%)
	アンケート調査 ①②	自分のことが好きだと感じるこどもの割合	62.8%	72.8%以上 (+10.0%)
4	アンケート調査 ①②	不安に感じることはないこどもの割合	49.1%	59.1%以上 (+10.0%)
	アンケート調査 ③④	家庭や学校に居場所がないこどもが安心して過ごせる居場所の提供の保護者認知度 (「知らない」の回答割合)	79.2%	69.2%以下 (-10.0%)
5	アンケート調査 ③④	長期休暇中の食糧支援の保護者認知度 (「知らない」の回答割合)	24.6%	19.6%以下 (-5.0%)
	アンケート調査 ③④	こども食堂の保護者認知度 (「知らない」の回答割合)	46.9%	36.9%以下 (-10.0%)